

都市計画道路補助第283号線拡幅計画に反対する陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第2号

受理年月日 令和元年5月13日

付託年月日 令和元年6月20日

陳情者
.

陳情原文 江戸川区が配布した、江戸川区北部の地図を見てください。

堤防に沿って葛飾区柴又方面から、北小岩8丁目、同7丁目、同4丁目、同3丁目と点線が打たれ、同時に16mと記されています。道は蔵前橋通りまで続きます。

これが、都市計画道路補助第283号線で、全長1,950mです。

この道路が計画されたのは昭和41年(1966)、今から53年前のこと。当時は昭和39年の東京オリンピックの「東京改造」計画の流れが残り、283号線も拡幅が決まったのです。

しかし、当時と現在を比べれば、283号線拡幅計画は住民の健康問題、環境破壊、交通問題に限りない課題を課しているのです。

まず、16mもの拡幅は高齢者、児童にとって横断しにくい道路、通りにくい道路となり、歩道橋でも造られれば、なおさらではないでしょうか。

環境破壊も同じです。住宅街を16mもの道路が貫通すれば、乗用車に限らず商業車、トラックなども制限速度30kmを守ることなく、猛スピードで7丁目、4丁目などを走り抜けるに違いありません。住環境は一変するでしょう。これは熟慮の上にも熟慮を重ねねばならない計画です。

さて、昨年6月、埼玉県三郷南ICと市川高谷JCT間15.5kmの外環道が開通しました。その結果、大宮、春日部などのナンバー車を除けば、つくば、千葉、習志野、野田といったナンバーの車は大きく減少しました。それは江戸川区が実施した交通量調査でも明らかで、篠崎街道北行で30%、岩槻街道南行も30%の減少が報告されています。

また、高齢者による運転免許証返上の動き、若者の自動車離れも加速しています。

これらを勘案してか、2015年末、東京都は補助第283号線拡幅計画は、向こう10年間凍結し、新たに検討する、としました。

また江戸川区は、283号線拡幅は万一の際、延焼遮断帯の役目を持つ、と最近言い始めました。しかし、その必要な幅は6mと言われています。いま、北小岩4丁目を例にとると、道路幅は平均で7mあります。この数字をみても、拡幅は必要なのか、疑問を禁じ得ません。

「計画ありき」で物事に対応、処理を進める態度。これは行政として厳に戒めることではないでしょうか。

(裏面に続く)

以上のことを考えても補助第283号線の拡幅計画に反対し、下記のとおり陳情します。

記

住民の健康問題、環境破壊などを考えれば、交通量が減少する中で、何故、道路拡幅をするのでしょうか。私たちは住みにくい町と化す都市計画道路補助第283号線の拡幅計画に反対します。